SC-IB News ’16.3-4

コミ＆事務局通信
12/APR/2016

http://www.scout-ib.net/

◆ 標準団を目指すということ その8　「女性指導者が大きな役目を担っているのだ！」

２３WSJ（第 23 回世界スカウトジャンボリー）に参加したスカウトたちは、一時ではありますが、標準団での活動を体験しました。参加スカウトから感想を聞くと、初めこそ、今まで経験したことのない標準班に戸惑ったり、面食らったりして、なかなか馴染めずに一歩引いていたスカウトも結構いたようです。しかし、１日２日と経つうちにほとんどのスカウトは、標準班の中の自分の役割と位置づけを見つけ出し、それをもって積極的に班に関わって行きました。それに出遅れてしまったスカウトも、班のメンバーのことが徐々に解ってくると、少しずつ距離を縮めて、大会半ばを過ぎた頃には、初めからそこに自分の居場所があったように班の一員として活動していました。

つまり、スカウト達は目標とやるべき任務、そして助け合える仲間、目指すべき先輩等がいればスカウト精神で立派な「班」を作り上げ、そしてそれをみんなできちんと運営しく力を持っているのです。それがこの 23WSJ で証明されました。もちろん引率指導者達の並々ならぬご苦労の賜ではありますが。

そんな話をしてくれた、スカウトの保護者であり女性指導者から、相談を受けました。それは、友人の知り合いのお母さんが子供をスカウトに入れたいと近く団の連絡先に電話したところ、どうも話がかみ合わなくて、その指導者が説明をされたとのことです。電話の相手は団委員長だったようです。

この話を聞いたとき「話を聞かない男・地図が読めない女」という本を思い出しました。概して男は、女性の話をちゃんと理解して聞けていないのですね。女性同士の話を聞いていても、話があっちこっちに飛ぶし、結論は出さないし「？？？」ばかりです。ところが、女性たちはそれで十分通じて、コミュニケーションが成り立っているんですよね。

例えば、「ボーイスカウトのことを伺いたい」というと、男の指導者は、スカウティングとはとか、B-P という創始者がいる。班制度と進歩制度があって・・・。という説明を１つ１つ順番に始めるワケです。これは男性特有の「縦」の理論構造ですが、お母さんが聞きたいことは、それもあるでしょうけれど、お金はどれくらいかかるのか、具体的にどんな活動をするのか、保護者はどうかかわるのか、指導者はどんな人なのか・・・と、同時並行型での情報収集なのですね。

つまり、男性と女性それぞれからの単位時間から得られる情報の量は、男性を１とすると女性からは５～ 10 にも上るようなのです。要するに男性からの情報では、欲しい情報が全く足りないか、長時間話を聞き続けないと十分にならないのです。しかも、同時並行型で質問をされると、男性はもうついていけません。結果として女性は情報不足となり、団に入らないってことになるんだそうです。

そうだとすれば、お母さんの望む情報を無理なく提供でき、しかもそこに共感までも生み出せる同性の女性指導者が団のメッセンジャーとして就いていれば、Win-Win の関係になってめでたしめでたしとなるのではないでしょうか。

ある団で、スカウトを募集するに当たって「PR 隊」として女性指導者や女性デンリーダーが中心の数人からなるチームを編成して、募集活動＆お母さんへの説明をしたところ、その年からの入隊スカウト数が大幅に増えたとの実績報告もありました。

ボーイスカウトに子どもを入れるかどうかの決定権をお母さんが握っているとすれば、お母さんを満たすことのできる同性の女性指導者が団の相談窓口となることが、スカウト増への第一歩となるのではないでしょうか？

同様に、男性隊長の隊では、スカウトのお母さん（それだけじゃなく女子スカウトも）と隊長との架け橋となる女性指導者の存在が大変重要になるワケですね。これで保護者会もうまく乗り切れるでしょう！・・・？

◆ 平成 27 年度富士スカウト代表「東宮御所」「首相官邸・文科省」表敬訪問

●東宮御所表敬訪問

3 月 16 日、30 県連盟より 47 人の富士スカウトの代表が、東宮御所へ表敬訪問。皇太子殿下がスカウトたちをご接見されました。

東宮御所内では、皇太子殿下が各スカウトとお話しになられた後、代表スカウトがお礼の言葉を述べました。また、皇太子殿下よりお言葉をいただき、弥栄をお贈りさせていただきました。

◆東宮御所　表敬訪問報告

日立第５団　助川菜々子

平成 28 年 3 月 15 日、16 日で行われた東宮御所表敬訪問には、30 都道府県から 47 名のスカウトが参加しました。そのうち女子スカウトは 9 人で、少なさに驚きました。

初日は、7 人ほどのグループに分かれアイスブレーキングを行いました。その後、「日本のスカウト減少問題に関して、富士スカウトとして出来ることは何か」というテーマでグループディスカッションを行いました。私のグループでは、それぞれの県での取り組みを交えた発表が多くとても勉強になりました。私は自団で行っているスカウト募集の活動の紹介と、どうしたら途中退団のスカウトが減少するかについて話をしました。グープディスカッション後は、記章の確認や訪問当日の流れの練習を行い、訪問への準備を整えました。

表　敬訪問当日は、朝礼の後にリハーサルを行いました。表敬訪問の直前には昼食を兼ねた自由行動の時間が設けられ、それぞれのグループごとにお台場周辺の観光をしました。

表　敬訪問の際は、皇太子殿下からボーイスカウトを始めたきっかけや CJK プロジェクトバングラデシュ派遣のことに関しての質問と「これからも体に気をつけて頑張って下さい」という暖かいお言葉を頂きました。

この表敬訪問で全国の富士スカウトと交流したことで、活動の視野が広がりました。今回の表敬訪問に参加させて頂いたことを名誉に思い、これからも富士スカウトとして一層活動に励んでいきます。最後に、派遣にあたって関係者の皆様に心より感謝しています。

●首相官邸・文科省表敬訪問

平成 27 年度の富士スカウト章受章の代表 47 人が 3 月 30 日、首相官邸と文部科学省を表敬訪問し、安倍内閣総理大臣、馳文部科学大臣から激励の言葉をいただきました。

▶安倍内閣総理大臣「励ましのことば」

「まずは皆さん、富士スカウト章受章おめでとうございます。

ボーイスカウト活動は、共に様々な活動を過ごしていくことを通じて、自立心そして協調性、またリーダーシップを学び、身につけて行く、素晴らしい活動だと思います。

そのなかで、皆さんは、そうした活動を通じて、皆さんの実績が認められ、最高の栄誉である富士スカウト章を受章されました。改めて、皆さんに心からお祝いを申し上げたいと思います。

昨年は私の地元、山口県きらら浜において、世界スカウトジャンボリーが開催され、皆さんの世界の仲間たちが一堂に会しました。私も出席をさせていただき、御挨拶もさせていただきました。そこからの熱気が伝わってくるようで、私もなんとなく気持ちがわくわくするような思いでありました。そして皆さんも、参加された方もおられるのかなとこう思いますが、日本中のスカウトの皆さんが協力をしていただき、成功裏に終えることができました。世界の仲間たちと、感動と連帯を共にし、そして、その中から新たな責任感、協調の精神、共生の精神を培い大いに成長されたことと、このように思います。

皆さんにおかれましても、そうした経験や、あるいはスカウト活動を通じて身につけた責任感、そして公共の精神、人のために尽くすことの尊さ。こうしたものをしっかりとこれからも胸に刻んで、大いに地域や社会や世界のために貢献していっていただきたいと思います。

改めて、皆様の受章にお祝いを申し上げまして、私の励ましの言葉とさせていただきたいと思います。皆さん、おめでとうございました。」

◆文科省・首相官邸　表敬訪問報告

日立第８団　藤本佳奈子

平成 28 年 3 月 29 ～ 30 日で行われた文科省・首相官邸の表敬訪問には、30 都道府県から 47 名のスカウトが参加しました。

まず、全国の富士スカウトが参加したとは言っても、東北からの参加者は 1 人もいない一方で、仲間の話を聞くと東京・大阪・愛知は富士スカウトが多すぎて面接での選考を通った方々が参加できたよ

うです。

〈初日〉

受付を済ませると早速、事前に振り分けられていた班ごとの自分の席に座り、その中でアイスブレーキングを行い打ち解けあえました。今回ほプログラム中はこの班で行動しました。ちなみに私は班長でした。

夕食までは、全体集会として服装や基本動作の確認・訪問先の動きの説明を受け、班集会として事前課題（これまでのスカウト活動で最も印象深いこと、プロジェクトでの苦労・学び、県代表に選ばれた心境、今後の目標について）をもとに１人５分で自分のスカウト活動のプレゼンを行いました。私はカブから今までの自分の活動規模の変化や富士章までの取り組みの中で得たこと、これからは自分の夢実現の為にもっと国際的な活動に参加したいということや今までの感謝の気持ちを込めて後輩への指導をしていくことをお話ししました。

他の班員ではスウェーデンでの世界ジャンボリーの参加経験があったり、RCJ の役割を持ってたり、技能章がタスキいっぱいに付いていたりと、様々なスカウトがいて非常に良い刺激となりました。

夕食後は表敬リハーサルを行いました。

〈二日目〉

朝礼後、リハーサルをして出発しました。

文科省では、馳大臣や山本議員から激励のお言葉を頂きました。「これからの『学び』にはテストの結果のみならず積極性やリーダーシップ・コミュニケーション能力といったものも必要となり、ボーイスカウトの活動はとても参考になる。富士章取得で留まらずぜひこれから後輩への指導にあたってほしい。」という内容が私の頭に残っています。

首相官邸では、安倍首相から「スカウト活動で身につけたものを生かして今後日本や世界に貢献していってほしい。」というお言葉を頂きました。

今回この表敬訪問に参加させていただき、改めて今までの自分を顧みて今後の目標を確認することができました。

また、全国のスカウトと交流し、日本中には素晴らしいスカウトがこんなにいるんだと実感し、学ぶことがたくさんありました。

先輩スカウトもたくさんいて、RCJ やジャンボリーでの IST についてたくさんお話を聞くことができ、私はそのような機会を利用して自分の活動の幅をさらに広げ、今回出会った仲間とまた一緒に活動したいと感じました。参加できて良かったです。

ぜひ後輩達に今回の話を聞いてもらって意欲の向上に繋げられればと思います。ありがとうございました。

【 参加指導者の感想 】

「楽しく学ぼう！リスクマネージメント」を受講して

ACM H.S.

２月７日の「安全管理・危機管理」研修は参加者募集の案内にもあったように体験型エクササイズという形式で行われ、楽しく受講することができました。

始まりは野外での○×クイズでした。同じグループの仲間と一問答えるごとに一喜一憂しながら、楽しく安全管理の基礎を学ぶことができました。研修室に場所を移してからは、事例研修が行われました。一つの事例に対し、まず、自分の考えを述べ、その後グループ内で話し合うことにより、新たな気づきが出てくるといった非常に有意義な内容でした。自分だけでは気づかないことも仲間とコミュニケーションをとることにより、新たな気づきがあり、見えなかったものが見えてくる。このことは、スカウト活動だけでなく、社会生活を送っていく上で非常に重要なことと思います。

様々な場面において安全管理・危機管理に対する答えは一つでなく、完全な答えはないのかもしれません。その時々において、そこにいる仲間とコミュニケーションをとり、より良い答えを見つけることが大切であると痛感しました。

このような気づきができたことを、この「指導者のつどい」を運営くださった方々、一緒に考えた仲間たちに感謝します。

どうもありがとうございました。

◆平成２７年度 CJKバングラデシュ派遣報告

1. **派遣者：** 日立第５団ローバー隊　助川菜々子
2. **派遣期間：**平成 28 年２月 12 日～２月 23 日
3. **派遣地：** バングラデシュ人民共和国　ダッカ管区シャリアプール
4. **派遣概要：**

　2016 年２月 13 日からの 10 日間、台湾・日本・韓国そしてバングラデシュのスカウト総勢 35 人が、CJK プロジェクト・バングラデシュ派遣に参加しました。今回日本はホスト国としてローバースカウト 10 人と指導者１人、他１人が、約３か月の準備期間を経て、プロジェクトを展開しました。

5. **主な活動：**

　活動地であるシャリアプールでは、宿泊地からバスで 40 分ほど移動したところにある村を訪ね、ひと家庭につき１セット、爪切りやサンダルなどを配りました（House to House campaign）。この活動は生活用品の普及と、その後に行った村の方々へ自分達の国の文化や保健衛生について教えるブースデモンストレーションへの参加呼びかけを目的とし、バングラデシュスカウトに習ったベンガル語で自己紹介やブースデモンストレーションの説明を行いました。ブースデモンストレーションはカルチャーブースとレクチャーブースの２つに分かれ、事前集会でバングラデシュスカウトによる村の事前調査に基づき、自分達で考えたデモンストレーション行いました。カルチャーブースではこまとけん玉、レクチャーブースでは手作りの米ぬか石鹸を使用した洗濯とロケットストーブ（燃焼効率の良いかまど）をそれぞれ紹介し、体験してもらいました。また、国際交流プログラムとして毎晩参加した各国のスカウトが企画した交流会が行われ、それぞれの国の遊びや歌、ダンスを楽しみました。その他にもゴミ拾いや焼却炉作成、国際母語デーのパレードへの参加などのプログラムがありました。

6. **感想：**

　独特の文化が根付いているバングラデシュ。日本人にはとても渡れないほど渋滞した道路、行く先々で多く見かける大量のゴミ、綺麗とは言えない水。私達が住む日本とはかけ離れた生活を送るバングラデシュの人々。しかしその笑顔は今でも忘れられない程素敵でした。最初に空港からダッカの街に足を踏み入れた時は、正直なところ日本で平穏に暮らし、バングラデシュについてわずかな知識しか持たない私達に出来ることがあるのだろうかという思いもあった。

　しかし、House to House campaign で私達が贈ったサンダルを履いて喜ぶ村の方々、真面目に洗濯の方法を学ぶ女性たち、ブースデモンストレーションでけん玉とコマで遊んでさらに笑顔になる子供達を見ていると、私達にも出来ることがあるという気持ちが湧いてきました。バングラデシュの人々は子供も大人も本当に明るく、温かいです。日本の視点から見るバングラデシュはどうしても途上国としてのイメージが大きくなってしまいます。しかし学校の授業では学べない日本とバングラデシュの良い面での違いを学びました。このプログラムは国際協力に関わりたいという夢を持つ私にとって、これからの自分の将来に大きく繋がったと感じます。

　それぞれ母国語が違う台湾、日本、韓国、バングラデシュという４つの国がスカウトという繋がりで同じ空間にいて、コミュニケーションをとっているという環境の中に 10 日間置かれ、本当に多くの事を学びました。英語にあまり自信はありませんでしたが、帰国した今でも毎日のように連絡を取る仲間を得ました。またこの派遣を通じて同じスカウトとしてそれぞれの国での活動を知り自分の活動の範囲が自分の県から全国、そして世界に広がって行くのを感じました。

　最後になりますが、推薦、応援して下さった自団や県連の方々、多くのアドバイスを下さった派遣団長、個性豊かで意識の高い素晴らしいクルーメンバーに本当に感謝しています。この派遣を通して学んだ事を伝え、またこれからの活動に活かしていきたいです。

【写真の解説】

①	②
③	④

① House to House camgpain で村の方々へ生活用品を贈呈

②こまの遊び方を村の子供たちに教えました

③ベンガル語での自己紹介、ブースデモンストレーションへの案内をバングラデシュスカウトに協力してもらいながら行いました

④ブースデモンストレーションの前に村人と交流

GB のつどい 2016

前号でもお知らせしましたが、今年度からグリーンバーのつどい（GB のつどい）は、時期を変更して「春」に、今年は４月 29 日（金）～５月１日（日）の２泊３日で、大和の森高萩スカウトフィールドで実施します。

今回は、19IC を目前に控え、19IC の参加形態である地区や複数団で構成する「標準隊」を視野に入れ、GB として「班」づくり（班の Build Up）を実体験し、班の機能や班員の役割、班会議と班長会議による自治、班集会から隊集会にいたるプロセスをしっかり理解することを目的とします。専門教室（シルバーアックス）は、現地で作成した班の総意と班長会議の議事・決定に従って参加することとなりますので、事前の参加希望はとりません。

1. 日　時　平成２８年４月２９日（金）～５月１日（日）２泊３日
集合 4/29 10:00　　解散 5/1 14:00（予定）

2. 場　所　日本連盟　大和の森・高萩スカウトフィールド

3. 内　容
- 班の在り方及び班のビルドアップ
- ＧＢ としての意識や技能を高めるプログラム
- 森の学校「シルバーアックス」
- キャンプファイア
- 引率指導者（GBL）のためのプログラム等

4. 活　動　スカウトは研修隊により、班編成して活動します。

5. 宿　泊　班ごとに男女別でのテント泊

6. 参加費　￥4,000 ／人　（運営費 ￥2,000 ＋食費 ￥2,000）
スカウト・指導者とも　（当日受付にて納入）

7. 参加対象者　４月 29 日時点で、２級以上の各団のグリーンバー（班長、次長、上級班長）および引率指導者
※ただし、今回に限り、初級スカウトであっても、19IC の参加隊で班長・次長の役務で参加する場合は地区コミッショナーの推薦があれば参加できます。
また、19IC で隊指導者となる指導者・ローバースカウトおよび、19IC で隊付または上班で参加するベンチャースカウトも参加できます。

8. 服　装　正装（できる限り新制服が望ましい）

9. 携帯品
- ２泊３日の野営ができる個人装備一式。
- 健康保険証の写し　他 HP 参照。
- ４月 29 日の昼食については、各自スカ弁持参のこと。

10. 申込締切日　平成 28 年４月 19 日（火）正午までに県連事務局に申し込みください。

11. 申込先　茨城県連盟　E-mail : ibaraki@scout-ib.net
FAX：029-224-3773
（各団ごとに、できるだけメール添付でお願いします。）

12. その他
- 今年度については、食材は運営本部で用意します。
- 班野営備品（テント、炊具、資材等）は、今回はプログラム委員会が用意します。
- 引率指導者が野営する場合は、できるだけ 19IC の参加単位で、野営用具一式（衣食住）をご用意ください。
- 指導者のつどいの通知で県連メールが誤っていました。正しくは、上記もしくは、
bsibarak@lilac.ocn.ne.jp　です。
（誤）bsibaraki@lilac.ocn.ne.jp

指導者のつどい（BS,VS）と 19IC の現地説明会

平成 28 年度の指導者のつどいは，指導者に知っておいていただきたいボーイスカウトの各部門の基本を学ぶ場として，部門ごとに３回，全体で１回の計４回を計画しています。４月はまず BS 部門・VS 部門を開催します。

BS 部門では，４月 29 日から開催されている GB のつどいを見学しながら，班制度や班の自治を生かした活動をどのように育てていくか，上級班長の立ち位置と班長へのかかわり方などを学んでいきます。いわばボーイスカウトの授業研究です！　ＶＳ部門ではジュニアリーダーについて学びます。上級班長や隊付としてのベンチャーをどのように方向付けするのか，それを自分自身の在り方と成長にどう繋げていくかを，実際に GB の研修隊を参観して確認し，理解して，隊に戻って指導・助言できるようになってもらいたいと考えています。

多くの指導者に参加していただき，隊の活動をスキルアップしていきましょう！　**指導者のつどいの詳細は通知または HP をご覧ください。**

また、今年の７月 30 日（土）～８月２日（火）に、19IC を開催るにあたって、会場となる「大和の森　高萩スカウトフィールド」において、現地説明会を下記の日程で開催します。　19IC についての今後の関連日程は、４月中旬の実施概要配付と参加者募集開始、５月末の参加申込み〆切を予定しています。

1. 日　時　平成２８年４月３０日（土）10:00-12:00
2. 場　所　日本連盟「大和の森」高萩スカウトフィールド
3. 対象者　各団ＢＳ隊・ＶＳ隊指導者（地区参加団等を編成する場合はその指導者候補の方）、地区役員
4. 内　容　19IC の概要説明、サイト下見、アクセス、駐車場、各団プログラム候補の説明等
5. 参加申し込み　４月２３日（土）までに県連事務局へ

※現地説明会の詳細は、通知または HP をご覧ください。